

6. まとめ

調査対象とした小松・加賀・あわら地区は面積約 437 km² で、この報告書に取りあげた北潟湖、柴山潟、木場潟の他、ラムサール条約登録湿地の片野鴨池や越前加賀海岸国定公園の北部を含む豊かな自然を有しています。片野鴨池は、石川県加賀市にある淡水の池ですが、名前のとおり、この池には越冬のため毎年多数のカモやガンが飛来することで知られ、江戸時代から続く伝統的な「坂網猟」という投げ網によるカモ猟が現在まで伝承されています。また、越前加賀海岸国定公園は、石川県加賀市から福井県敦賀市に至る日本海沿岸部を中心とした国定公園であり、日本海の荒波に削られた断崖や海岸段丘が形成されています。

本調査で得られた成果及びデータが、環境調査等のその他の知見とともに、地域の環境保全や、片野鴨池の越冬環境の保全・再生・利用、交流・学習活動等、それぞれの湖沼における改変の歴史と現状を踏まえた適切な利用のための基礎資料として、自然と共生する地域づくりに広く活用されることを期待します。

本調査の実施に際して、石川県、福井県、石川県南加賀土木総合事務所、大聖寺土木事務所、福井県三国土木事務所、石川県小松市、加賀市、福井県あわら市、北潟漁業協同組合、その他関係機関よりボーリング資料や都市計画図を始め各種資料を提供していただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

なお、この報告書に使用した地形図等は、国土地理院が発行している 2 万 5 千分 1 地形図、5 万分 1 地形図、20 万分 1 地勢図及び国土地理院が作成した旧版地形図であり、また使用した写真は、国土地理院撮影の空中写真及び国土地理院が保有する米軍撮影の空中写真、並びに現地調査等で撮影したものであることを付記します。

参考文献

- あわら市 (旧芦原町) (1973) : 芦原町史 P819
あわら市 (旧細呂木村) (1963) : 細呂木村史 P716
あわら市 (旧金津町) (1958) : 金津町史 P731
あわら市 (旧伊井村) (1954) : 伊井村誌 P648
池田安隆、今泉俊文、東郷正美、平川一臣、宮内崇裕、佐藤比呂志編(2002) : 第四紀逆断層ア
トラス 東京大学出版会 P254
石川県 (1985) : 5 万分 1 土地分類基本調査「小松」
石川県 (1988) : 5 万分 1 土地分類基本調査「大聖寺・三国・永平寺」
石川県自然解説員研究会編 (2001) : いしかわの自然を楽しむ 楓工房 P158
「いしかわの森」編集委員会編 (1996) : いしかわの森林 50 選
開湯芦原 100 年史記念誌編集委員会 (1984) : 開湯芦原 100 年史 P357
加賀市 (1978) : 加賀市史 P1123
活断層研究会編(1991) : 新編日本の活断層 東京大学出版会 P437
環境庁(1993) : 第 4 回自然環境保全基礎調査「湖沼調査報告書」北陸・甲信越版 (新潟県・富山
県・石川県・福井県・山梨県・長野県) P17-25~45 18-5~11
市町村要覧編集委員会(2008) : 平成 20 年 全国市町村要覧 第一法規 P571
小松市 (1965) : 小松市史 (4) P422
坂井郡 (1977) : 坂井郡史 P890
豊蔵勇・大村一夫・新井房夫・町田洋・高瀬信一・中平啓二・伊藤孝 (1991) : 北陸の海成段丘
における三瓶木次テフラの同定とその意義 第四紀研究 P30-2 79-90
粕野義夫・三浦静・藤井昭二 (1992) : アーバンクボタ NO. 31-北陸の丘陵と平野- P65
粕野義夫 (1992) : アーバンクボタ NO. 31-加賀平野- P48-5
藤 則雄 (1975) : 北陸の海岸砂丘 第四紀研究第 14 巻第 4 号 P195-220
藤 則雄 (1997) : 小松市弥生中期八日市地方遺跡の花粉分析に基づく古環境解析
金沢大学教育学部紀要 (自然科学編) 第 46 号 P85-105
福井県 (1987) : 5 万分 1 土地分類基本調査「大聖寺」
福井県 (1981) : 5 万分 1 土地分類基本調査「三国」
吉崎資料館 (1978) : 吉崎資料館 P63

(五十音順)

用語集

- ヒシ(p1)**：沼や池に生える1年生水草。水中の泥の中に根をはる。葉は3～6cmの三角形に近いひし形で、水面に浮き、表面につやがあり、ふちにギザギザがある。葉柄はふくらんでおり、浮袋の役目をする。7～10月頃、1cmくらいの白い花をつける。実はひし形で、両側にトゲがあり、古くから食用とされた。実の形からこの名がついた。変種のオニビシは実のトゲが4本ある。
- ガガブタ(p1)**：本州以西の湖や池などの浅い水中に群生する多年草。葉は、濃緑色で直径は数cmから10数cmほどの円状やだ円状の腎臓形をしている。葉柄基部にバナナの房状の殖芽を形成する。花期は夏で、1.5cmほどの白い花が咲く。漢字では鏡蓋。
- コウホネ(p1)**：池や沼などの浅い水中に生える多年生水草。地下茎は白色で太い。水中の葉は細長く海草に似る。水上の葉は長さ20～30cmのだ円形で光沢がある。6～9月頃、水中から突きぬけた花柄の先に5cmほどの黄色い花が上向に咲く。地下茎が白骨に見えることからこの名がついた。地下茎は、強壯、止血などに効く薬としても使われる。
- ヨシ(p1)**：池沼や河口などに群生する高さ2～3mの大型の多年草。地下茎は太く横にはう。茎は硬く、直立する。葉は長さ20～50cm前後の線形で、互生する。8～10月頃、茎の先に淡紫色の小穂を密につける。アシともいう。
- ラムサール条約(p2)**：正式な名称を「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といい、1971年に、イランのラムサールで開催された「湿地及び水鳥の保全のための国際会議」で採択された条約。
- 海跡湖(p3)**：砂州や沿岸州・砂嘴などの発達によって海の一部が閉塞されて生じた潟湖のような湖を指す。
- DGPS(p4)**：位置のわかっている基準局が発信するFM放送の電波を利用して、GPS（全地球測位システム）の計測結果の誤差を修正して精度を高める測量技術。Differential Global Positioning Systemの略。
- 検土杖(p33)**：土壌調査用具の一つで簡易ボーリングにおいて主に使用される。長さ1mまたは1.5m程度の鋼鉄製の棒の先端1/3(30cmまたは50cm)に溝があり、反対側に把手が付けられるようになっている。溝の先端を土壌に押し込み把手を1回転して引き上げ、溝に詰まっている土壌の色や粒径組成を調べる。次に同じ穴に2/3まで押し込んで引き上げる。これを3回繰り返すと90cmあるいは150cmまでの土壌断面の大体の様子がわかる。